

1	【目次】
2	【Track 1】ある日、天使が降りてきた
3	【Track 2】世間知らずの天使
4	【Track 3】心配する天使
5	【Track 4】天使をデートに誘おう
6	【Track 5】告白
7	【Track 6】プロトーク
8	【Track 7】天使は既に穢されて
9	【Track 8】寝取られビデオ通話
10	【Track 9】完堕ち寝取られ報告
11	【Track 10】H。ログ

- 1 【Track 1】ある日、天使が降りてきた
- 2 声のトーン：やや低め。テンションが上がると高くなる
- 3 【正面／中】
- 4 (夜、自宅で過ごす主人公の前に突然天使が現れる)
- 5 よつ、と。この気配……うん、君で間違いなさそうだ。
- 6 (事務的に、淡々と)
- 7 初めまして。僕は魔王を倒すために、天界から降りてきた存在……つまりと、天使だ。
- 8 僕がここに来た理由……心当たりはあるんじゃないかな？
- 9 君は少し前まで、魔王を名乗る女と、長い間接触していたよね。
- 10 魔王は危険な存在だ。もしも彼女が暴れ出したら、この世界に大きな被害を残すだろう。
- 11 もう、こんなことはやめるんだ。
- 12 そうしないと、君だけでなく、世界中が彼女の脅威に晒される事になる。
- 13 今からでも遅くない。僕と協力して、魔王を倒そう。
- 14 ……何も知らない？ そんなことはありえない。シラを切つても無駄だよ。
- 15 こうして話している今も、君からは魔王の気配がするんだ。
- 16 だから僕は、君の前に現れたんだ。魔王の復活に手を貸している、君の前に。
- 17 神々だって、それは確認している。言い逃れは出来ないよ。
- 18 (優しく言い聞かせるように)
- 19 素直に魔王のことを話してくれば、悪いようにはしない。
- 20 そのことで君が魔王に襲われたら、僕が必ず守るから。

- 1 ……本当に、何も知らないのかい？ でも、そんなこと……。
- 2 (次の一行は、独り言を言うように小声でブツブツと)
- 3 確かに、嘘を言っているようには見えない。まさか、記憶を操作されている？
- 4 すまない、ちよつと失礼するよ。
- 5 (天使は主人公の顔を間近で覗き込み、またブツブツと独り言を言う)
- 6 【正面／密着】
- 7 うーん、本当にそうだったのか……だとすると、厄介だぞ。どうやって魔王を見つけなければいいんだ……。
- 8 (顔を離す)
- 9 【正面／近】
- 10 どうやら本当に、君は何も覚えていないようだ。
- 11 おそらく、魔王は足取りを探られないように、君から記憶を消しているんだろう。
- 12 だから君は、魔王について何も覚えていないんだ。
- 13 (不思議そうな声で。天使は自分が美人であることを理解していないので、男が照れていることに気付かない)
- 14 うん？ どうしたんだい、顔が赤いよ？ 大丈夫？
- 15 ああ、そういうえば……記憶がないという事は、僕が何を言ってるのかも、さっぱり分からないよね。
- 16 順を追って説明するよ。
- 17 【正面／中】
- 18 まず、この世界には今、異世界からやってきた魔王が潜伏している。
- 19 魔王は元いた世界で勇者に敗れて、別の世界に逃げたんだ。
- 20 神々は、魔王の行き先を探し続けた。

- 1 大変だったみたいだよ。なにせ魔王は、逃げる時に力を使い果たしてしまったらしくてね。
- 2 魔力は辿れず、手掛かりはわずか。だけどそれでも、懸命に探し続けて……。
- 3 ようやく、魔王の気配を強く残す人間……君を見つけたんだ。
- 4 だから、僕はここに来た。君なら、魔王の行方を知ってると思ったから。
- 5 まあ、記憶を消されていたから、それも無意味に終わってしまったけど。
- 6 でも、君と魔王に、繋がりがあったのも事実だ。これを逃す手はないよね。
- 7 ……よし、決めた。僕は今日から、君をずっと監視し続けることにする。
- 8 二十四時間、三百六十五日。魔王が尻尾を現すまで、ずっとだ。
- 9 君と魔王には、繋がりが確かにある。いずれまた、君に近付いてくることもあるだろう。
- 10 その時を狙って、確実に仕留める。そのためには、君を監視する必要があるからね。
- 11 そういうわけだから、今日からはここに住むことになる。急で悪いけど、どうか分かってほしい。
- 12 (不思議そうに。天使は無知なので、男女が一つ屋根の下で暮らす意味もわかっていない)
- 13 なにを慌てているんだい？ 顔を真っ赤にして。
- 14 ……本当に、ここに住む気がって？
- 15 当然だろう？ 魔王はいつ現れるか分からないんだ。
- 16 別々の家で暮らしては、意味がないじゃないか。
- 17 四六時中そばにいるわけじゃ無いから、安心して欲しい。
- 18 すぐ駆け付けられる場所にいるだけだ。
- 19 何かおかしなことがあるかな？ ないよね。
- 20 さて、他に質問はある？

- 1 ……ふむ。「この羽根は本物だよ。仮装とかじゃない。
- 2 どう、触ってみる？
- 3 (主人公に翼を触られ、得意げに)
- 4 僕が本物の天使だって、わかってくれたかな？
- 5 コスプレ？ なんだい、それ？
- 6 ……僕のこれを、子供の仮装か何かだと思ったのかい？
- 7 違うよっ、これはれっきとした天使の正装だ！
- 8 疑いたくなる気持ちもわかるけど、さすがに失礼じゃないかなっ。
- 9 というか、僕は子供じゃないっ。天使に身長は関係ないだろう。
- 10 不敬なことばかり言って、天罰が下っても知らないぞ。
- 11 (呆れた声で)
- 12 はあ……もういいよ。君は本当に何も覚えてないんだな。
- 13 魔王を覚えているなら、僕の見たくらいのことで驚かないだろうから。
- 14 (落ち着きを取り戻して、また事務的な口調で)
- 15 それじゃあ、もういいかな。質問、ないよね？
- 16 名前？ そういえば、名乗ってなかったっけ。
- 17 僕の名前はエリー。呼び捨てで構わないよ。
- 18 ん？「」の手は……？ ふむ、そうだね。これから共同生活をするんだ。
- 19 最初の挨拶は、きちんとしておいた方がいいよね。
- 20 (握手する二人)

1 【正面／近】

2 改めて、これからよろしく頼む。

3 さて、説明している間に、すっかり夜遅くなってしまった。

4 君も、今日は早く寝るといい。

5 僕は床で寝ているよ。何かあればすぐに起きるから、心配しないで。

6 ……え？ 君が床で寝る？

7 いやいや、家主の君を差し置いて、僕がベッドを使うわけにはいかないだろう。

8 天使だからって、そんなことまで要求しないよ。君がそこまでする必要はない。

9 ……はあ。どうしても、僕を床で寝かせるわけにはいかないか。

10 そうだ、それなら一緒に寝ればいいじゃないか。

11 少し狭いだろうけど、そうすれば二人ともベッドで寝られるよね？

12 (うろたえる男を見て、疑問そうに。天使は男女同衾が意味することも知らない)

13 だから、どうして顔を赤くするんだい？

14 ふふっ。面白いやつだな、君は。

1 【Track 2】世間知らずの天使

2 (一緒に暮らし始めて数日)

3 【左／近】

4 おーい。おーいってば。

5 ……聞こえてないのかな？ おーい。

6 やれやれ、しょうがないな……。

7 【左／密着】

8 おーい。ふー……。

9 【左／近】

10 ……はあ、やっと気付いた。

11 何の用って……お風呂が沸いたから、教えに来ただけど。

12 何度呼んでも反応がないから、聞こえてないのかと思ったよ。

13 相当疲れてるみたいだね。今日も仕事だったんだろう？

14 お風呂に入って、身体を休めるといい。

15 ……あれ、その板、光ってるぞ。どうしたんだ？

16 板じゃなくて、すまほ？ 「すまほ」ってなんだい？

17 (説明を受けて、時間が飛ぶ)

18 へえー……つまり、この「スマホ」があれば、離れている人とも連絡が取れるのか。

19 それだけじゃなく、様々な遊びが楽しめたり、生活に役立つ機能もある、と。

20 人間も、なかなか便利なものを作るね。

1 ねえ、君がお風呂に入っている間、これを借りてもいいかい？

2 興味が湧いたよ。僕も使ってみたいな。

3 ……ありがとう。それじゃ、ゆつくりしておいで。

4 お風呂で寝てはダメだよ？

5 (主人公が風呂に入る。また時間が飛ぶ)

6 【正面／近】

7 (トーンは変わらないがやや早口。無知な天使にも恥じらいはある)

8 ……っ！ 君っ、これはなんだ。

9 とぼけるんじゃない。君のスマホ、裸の女性の絵ばかり出てくるじゃないか。

10 し、しかも……ただ裸だけじゃなく、あんなことやこんなことまで……。

11 君がそんなスケベな人間だったとは、見損なったぞ。

12 まったく、油断も隙もあつたもんじゃない。

13 ……え？ 君くらいの年齢の男性は、大体こんなもの？ そ、そうなのか……。

14 うーむ……それならまあ、いいのかな……。

15 【正面／中】

16 (恥ずかしいので、すぐに話題を変えようとする)

17 それでだな、スマホを使ってみて思ったんだが……僕も欲しくなった。

18 世界中の人と連絡が取れる機能……。これがあれば、魔王の行方も掴めるかもしれない。

19 うん？ 天使の力で見つけられないのか、って？

20 そうだね、少し説明するのが難しいんだけど、結論から言えば、それは出来ないんだ。

- 1 君の言う通り、魔力を辿って探すという方法はある。
- 2 実際に辿り着いたのも、ごくわずかな魔力の痕跡を探し当てたからだ。
- 3 だけど、同じ方法で魔王そのものを探すのは、この世界では難しい。
- 4 第一に、魔王は恐らく隠蔽工作をしている。
- 5 魔王ほどの強大な存在であれば、魔力量で目立ってもおかしくない。
- 6 なのに、そんな巨大な魔力はこの世界でも感知できない。
- 7 これはつまり、魔王が何らかの手段で、感知をすり抜けていることになるんだ。
- 8 そのうえ、魔力だけなら相当大きなものを持っている人間もいる。
- 9 だから、魔力の大きさでは判別できない。
- 10 第二に、この世界には人間が多すぎる。この街は特にね。
- 11 魔力には個人を特定できるような、色みtainなものがあるんだけど。
- 12 この世界は人の数が多すぎて、一人一人の色を確認するのは不可能なんだよ。
- 13 そして魔力を用いた探知法は、この二つしかない。
- 14 そういうわけで、魔力をあてに探すのは不可能なんだ。
- 15 それよりは人脈を増やして、それらしい人物とか、不思議な現象とか。
- 16 そういった目撃情報を探す方が、まだ可能性はあるんだよ。
- 17 君を見張っているだけでなく、次善策も考えておく必要があると考えるのことだ。
- 18 (恥ずかしそうに)
- 19 ……というのは、半分くらい建前でね。
- 20 正直に言うと、人間が生み出した高度技術の塊が、どうしても欲しいんだ。

- 1 こんな便利なもの、天界にはないから。
- 2 あっ、勘違いしないでね。
- 3 さっき言ったことは、間違いなく事実だ。
- 4 魔力を辿るのは不可能なもの、次善策が必要なのも本当のことだよ。
- 5 それ以上に、このスマホという機械が欲しいというだけで……。
- 6 これ、どうすれば手に入るのかな？ 君のそれは、どこで手に入れたんだい？
- 7 ……そうか、お店で。やはりお金がかかるのか。
- 8 あいにく、僕はお金を持っていなくてね。通貨なんて、天界にはないから。
- 9 こればかりは仕方ない。たまに君のを借りて我慢するとしよう。
- 10 ……えっ、君が買ってくれるのかい？ いいの？
- 11 でも、スマホって高価なんだろう？ 何だか申し訳ないな……。
- 12 気にしないでいい？ そう？ じゃあ、お言葉に甘えようかな。
- 13 なら、今度一緒に買いに行こう。約束だからね。
- 14 次の休みはいつだい？ ……ええっ、いつ休めるか分からない？
- 15 (露骨なくらい落ち込んでいる)
- 16 じゃあ、僕のスマホは……。
- 17 いや、君にも生活があるからね、しょうがない。
- 18 (強がるように)
- 19 なんだ？ 落ち込んでなんかないぞ！ 君の気のせいだっ。
- 20 ううっ、そっだ、落ち込んでなんか……。

- 1 ……本当に？ 今週末、休みを取ってくれる？
- 2 (すぐ機嫌を直す)
- 3 そうか……そうか。うん、ありがとう。
- 4 ふふっ、何だか今から楽しみだ。
- 5 それじゃ、今日はもう寝よう。君は明日も仕事だろう？
- 6 夜更かしは良くない。早めに寝て休むんだ。
- 7 (恥ずかしいので、一緒のベッドで寝ることに抵抗が生まれる)
- 8 ……今日も、一緒に？ うーん……。
- 9 あんなものを見た後では……少し、抵抗があるというか。
- 10 かといって、床で寝ると言っても君は聞かないだろうし……。
- 11 わかった。今日も一緒に寝よう。
- 12 でも、あの絵みたいなのスケベなことはダメだぞ、絶対に。
- 13 いいかい、絶対だぞ。絶対だからね？
- 14 フリ？ 何だい、それ。よく分からないけど……。
- 15 とにかく、絶対スケベは禁止！ いいね？
- 16 じゃ、うん。おやすみ……。

1 【Track 3】心配する天使

2 (出会って数ヶ月後の、ある日の仕事帰り。駅を出て家に向かう途中、エリーが目の前に現れる)

3 【正面／中】

4 やあ、仕事お疲れさま。今日も大変だったね。

5 ああ、ごめん。突然現れたら、ビックリするよね。

6 とりあえず、家に向かおうか。

7 (歩き出す二人)

8 【右／中】

9 うん？ 僕がいつも、どうやって君を監視しているか？

10 そうか、そういえば言うてなかったっけ。

11 僕たち天使には、人から姿を見られなくする能力が備わっているんだ。

12 要は姿を隠して、こっそり見てるってこと。

13 食事？ ちゃんと取ってるよ、心配しないで。

14 むしろ、心配なのは君の方だよ。毎日毎日こんな遅くまで……。

15 おおかた今日も、君の手に余る量の仕事を押し付けられたんだろう。

16 ちゃんとやればやるだけ、それ以上に仕事が増み重なっていく……そういう悪循環に陥っていく。

17 最近は僕にもわかるんだ、君の疲れ方を見ているとね。

18 正直、君がいつか壊れてしまふんじゃないかって、僕は心配だよ。

19 そうなる前に、ここから抜け出さなきゃダメだ。

20 って、なんだい？ 不思議そうな顔して。君のことを心配するのが、そんなに変かな？

- 1 ……………そうか、そうだね。確かに君の言う通り、君は僕の監視対象だ。
- 2 だけど、魔王を倒すために、短くない時間を一緒に過ごした仲間だとも思ってる。
- 3 心配で当然だろう？ 僕は君に、辛い目にあつて欲しくないんだ。
- 4 (申し訳なさそうに)
- 5 ただ、食事から寢床から、何から何まで君にお世話になっている僕が言えた事じゃないけど…………。
- 6 君の仕事が多いのは、僕がいるせいでお金の負担が増えたからだろう？
- 7 そのことは、本当に申し訳ないと思ってる。
- 8 だから、何か君の役に立てるよう、仕事を探しているんだ。
- 9 君がくれたスマホは、そういうことも出来るんだよね。
- 10 残念ながら、身元不明の僕を雇ってくれる店は、どこにもなかったんだけど。
- 11 こんな生活をすると思つてなかったから、その辺の準備は全くしてなくて。
- 12 (悲しそうに。内心では終わらせたくないが、主人公のためを思つて提言している)
- 13 ……ねえ。もう、終わりにした方が良くないかな。
- 14 君と出会ってから、もう何ヶ月も経った。でも、魔王は一向に姿を現さない。
- 15 なら、君に負担をかけてまで監視を続ける必要なんて、ないんじゃないかな？
- 16 そうすれば、君だって少しは楽になれるはずだ。
- 17 (驚いたような調子で)
- 18 えっ？ 別にいい？ でも、今の僕は、君にとっては負担でしか…………。
- 19 ……そばに居てくれるだけでいい、それだけで大丈夫…………。
- 20 しかし、それで君の負担が減る訳でもないじゃないか。

- 1 ……お金の心配はない？ そうだったの？
- 2 そういえば、僕のスマホも一括で買ったんだっけ。
- 3 それなら確かに、問題は無いと言えるだろうけど。
- 4 どうして？ どうしてそこまで、僕に？
- 5 (数秒、間をおいて)
- 6 ……そうか、そうだったんだ。君も、僕を仲間だと思ってくれていたんだ。
- 7 しかも、その……大切、って。ふふっ、嬉しいな。なんでか分からないけど、とても嬉しい。
- 8 わかった。君が良いというなら、もう少しお邪魔するよ。
- 9 これからもよろしくね。
- 10 (呟くように)
- 11 大切、大切……えへ。そっかあ、大切か……。
- 12 あっ。そういえば、今日は夜ご飯まだだったよね？
- 13 どうせロクに食わずに寝るつもりだったんだらう？ ダメだよ、そんなの。
- 14 疲れてるから食べない。食べないから元気が出ない。これも悪循環じゃないか。
- 15 どんどん痩せていく君の姿は、見ていてとてもつらいんだ。
- 16 疲れててもちゃんと食べないと、本当に倒れてしまうぞ。
- 17 (恥ずかしそうに)
- 18 ……えっと、その……僕が、食べさせてあげようか？
- 19 どうしてもというなら……あーん、してあげるよっ。
- 20 うんっ。どっかニヤニヤしてるのっ。

- 1 えっ、なっ、可愛い……？ 僕が？ どこが？
- 2 ……恥ずかしがつてるところ？ なっ、ちがつ、恥ずかしがつてないよ。
- 3 ああもう、またニヤニヤして……！ 違ったら違っただっ。
- 4 (からかわれて、天使は拗ねている)
- 5 ふんっ、心配して損した。僕をからかう元気はあるんじゃないか。
- 6 これなら、僕が食べさせなくてもよさそうだね。
- 7 なんだい、どうかした？ 捨てられた守護獣のような顔をして。
- 8 ……ふふっ、冗談だよ。そんな顔しないで。
- 9 ちゃんとあーん、してあげるから。
- 10 ほら、早く帰るよ。そうしないと、寝る時間が無くなっちゃうぞ。
- 11 明日も仕事なんだから、急がないと。
- 12 ほら、コンビニ着いたよ。寄ってごらう。
- 13 (各々夜食を購入し、店を出る)
- 14 【左／中】
- 15 すまないね。僕の分のデザートまで。
- 16 でも、君はおにぎり二個だけで大丈夫なのかい？
- 17 朝はいつも食パン一枚だし、今日の昼も栄養食品だけだったんだろう？
- 18 さっき、お金の心配はないって言ってたじゃないか。
- 19 なら、食費を切り詰める必要もないよね？
- 20 (朗々と、教えを説くように。)

- 1 健康は、お金で買えるうちに買っておくべきだよ。
- 2 そういう些細なところから、幸せというのは積み重ねていくんだ。
- 3 美味しいものを食べる。お腹いっぱいになるまで食べる。
- 4 一度に二つの幸せが得られるんだ。食事というのはいいものだよ。
- 5 本来、食事を必要としない天使だって、食事の偉大さに気付いているんだ。
- 6 人間である君こそ、この文化を大事にするべきだと思う。
- 7 うん？ ああ、そうだよ。僕たち天使には、食事は必要ないんだ。
- 8 何を食べても魔力に変換されるから、身体に変化が起きることもない。
- 9 最初からこの形で生み出されて、それで完成している。
- 10 だから成長も劣化もしない。僕の見た目は天命が尽きるその瞬間まで、ずっとこのままだ。
- 11 (得意げに。人間が太りたくない生き物だと天使は最近知った)
- 12 つまり、いくらデザートを食べても、絶対に太ったりしないんだよ。
- 13 これ以上背が伸びないことだけは、少々不満があるけどね。
- 14 羨ましいかな？ 人間は太ることを嫌うらしいからね。
- 15 ああでも、君は今すぐ太るべきだと思うよ。
- 16 今の君、痩せすぎて木の枝みたいだから。
- 17 ふふ。帰ったらおにぎりだけじゃなくて、僕のデザートも少し食べなよ。
- 18 元々は君のお金で買ったものだ。少しはその権利を主張してもいいんだよ。
- 19 あっ、でも全部はダメだからね。僕の方も残しておいてくれないと困る。
- 20 ……なんで黙るの？ まさか、全部食べたりしないよね？

「ねえ、答えてよ。ねえってば!!」

- 1 【Track 4】天使をデートに誘おう
- 2 (更に数ヶ月。二人はすっかり打ち解けている)
- 3 【左／遠】
- 4 お風呂、上がったよ。ああ、いい湯だった。
- 5 (天使は主人公に見られるのが恥ずかしい)
- 6 【正面／中】
- 7 うう……あまりこちらを見ないでくれないかな。イヤな訳じゃないけど、その……恥ずかしいから。
- 8 君に見られていると思うと、不思議とそういう気持ちになってしまうんだよ。
- 9 もう何ヶ月も同じことを繰り返しているのに……未だに慣れなくて。
- 10 最近の僕は、本当におかしいんだ。天使なんだから、人間に見られるくらいなんてことなかったはずなのに。
- 11 ……どうして君まで恥ずかしそうにしてるんだい？
- 12 (からかうような調子で)
- 13 【正面／近】
- 14 ねえ、どうして？ なんでそんなに顔が赤いのかな？
- 15 【左／近】
- 16 あっ、目を逸らした。まあいいけど。
- 17 ところで、なにを見てたんだい？
- 18 (訝しげに。画面を隠そうとする主人公を怪しむ)
- 19 どうして隠すの？ また何か、スケベなものでも見てたのかい？
- 20 違うといつなら見せられるだろう？ ほら、見せてみなよ。

- 1 ……なにこれ、おすすめデートスポット？ 君、付き合っている女性、いたっけ？
- 2 (焦ったように、早口気味。主人公が落ち込んだので焦っている)
- 3 ああつ、すまない。 君を傷つけるつもりは全くないんだ。
- 4 ただ、普段から会社と家の往復ばかりの君に、
- 5 デートするような相手がいたかなって思っただけでね？
- 6 うああ、もつと落ち込んでる……もしかして追い打ちだったのかな、今の。
- 7 本当にごめん。そんなつもりじゃないんだ、気を悪くしないで。
- 8 こほん。話を戻そうか。
- 9 それで、おすすめのデートスポットというのは、どんな所なんだい？
- 10 へえ……恋人の聖地なんてものがあるんだ。
- 11 あつ。こゝ、この前スマホのニュースで見た。たしか、この街からそう遠くなかったよね。
- 12 ふーん、鳴らすと結ばれる鐘……恋の天使が祝福……。
- 13 あはは。面白いね、人間の考えることは。こゝという願掛けがあるんだ。
- 14 そんなもの、これと言って意味はないんだけどね。恋の天使なんかもないし。
- 15 ……夢を壊す？ ああ、人間からすればそうかもしれないね。
- 16 だけど僕にとつては、そっちの方がよっぽど夢があると思うんだ。
- 17 (テンション高めで。自慢するよつこ)
- 18 だって、ここに来て結ばれた恋人たちは、自分たちの力だけでそれを成し遂げたんだよ。
- 19 天使とか神とか、そういう特別なチカラも無しに、彼らは幸せを手に入れたんだ。
- 20 もちろん、願掛けをするからには、そういうものに頼る意思はあったのかもしれないけど。

- 1 でも、彼らが掴んだ幸せは、間違いなく人間の方で手に入れたものだ。
- 2 それはとても素敵なことだと、僕は思う。
- 3 できれば君にも、そういう恋愛をしてほしい。
- 4 もし君に、そんな出会いがあったのなら……僕はそれを……それを……。
- 5 (一瞬、言葉に詰まる)
- 6 【正面／近】
- 7 ん？ どうかした？ ……様子が変？ そうか。
- 8 そんなに顔に出てたかな。
- 9 (落ち込んでいるような調子で)
- 10 ……うん。正直に言っとね。
- 11 君が誰かと恋に落ちて、仲睦まじく過ごすところを想像したら、
- 12 なんだかとても複雑な気持ちになった。
- 13 上手く言えないけど、凄くモヤモヤするんだ。
- 14 君が幸せになる事には、何の不满もないよ。幸せでいてほしいと、心から願ってる。
- 15 でも、隣にいるのが僕じゃないことが、なぜかイヤで。
- 16 別の誰かと幸せになる君を、心から祝福できないと、そう思ってしまったんだ。
- 17 (自嘲気味に)
- 18 おかしいね。僕は天使で、君は人間。使命が終われば、僕は天界に帰る定めだ。
- 19 ずっと一緒にいられるわけじゃないのに。
- 20 そもそも、君が誰を好きなのかも知らないのに。

- 1 僕のこの気持ちは、一体何なんだろう。
- 2 僕は君を大切に思ってる。でも、それだけじゃない気がする。
- 3 そうじゃないと、このモヤモヤは説明できない。
- 4 (すぎるように、主人公に問いかける)
- 5 君は、答えを知ってるかな……。
- 6 ……知ってるのに、教えてくれないのかい？ どうして？
- 7 ……それは、自分で見つけるものだから、か。
- 8 確かにそうかもね。君に聞くのはズルだった。
- 9 うん。自分で探してみるよ。僕の、この気持ちの名前を。
- 10 すまないね、暗い話をしてしまって。続きを見ていこう……って。
- 11 (戸惑い気味に。主人公のいつになく真剣な表情に気圧されている)
- 12 どうしたの？ 急に真面目な顔になって……。
- 13 へえ、デートに誘いたい相手、いるんだ？
- 14 (天使は内心めちやくちや動揺しているが、平然を装っている)
- 15 そっか。ふーん。まっ、まあ君も男の人だからね。浮いた話の二つや二つ、あってもおかしくないよね。
- 16 ……え？ 僕？ その相手って、僕なの！？
- 17 (大げさに驚く)
- 18 からかってるんじゃないよね？ 本当に？ 本当に僕なの？
- 19 あっ。もしかして、さっきの話を聞いて、僕に同情してる？。
- 20 そんなことしなくても大丈夫なのに。君は優しいね。

- 1 ……違うの？ 最初から、そのつもりで？
- 2 それこそダメだよ。さっきの話、聞いてなかったの？
- 3 僕は天使、君は人間。いずれ僕たちは、離れ離れになる運命なんだ。
- 4 いい思い出ばかり作ると、別れる時に辛くなるだろう？ だからダメだ。
- 5 『他の相手を』で言葉に詰まる)
- 6 僕じゃなく、他の相手を……。
- 7 まだだ。どうしてもモヤモヤする……。
- 8 君のためにも、ここは強く断らなきゃいけないのに。
- 9 どうしても出来ない。いったい何なんだろう、これ。
- 10 ……君とデートすれば、このモヤモヤの正体分かる？ 本当に？
- 11 (自分に言い聞かせるように)
- 12 そういう事なら、うん。仕方ないな。この気持ちの名前を知るためなら仕方ない。
- 13 そうしないと、僕も後腐れなく天界に帰れないからね。
- 14 モヤモヤを抱えたまま君と別れるのはイヤだし。
- 15 わかった。デートのお誘い、喜んでお受けするよ。
- 16 (楽しそうに。天使はデートできるのが嬉しい)
- 17 じゃあ、どこに行くかはこれを見て決めるとして……いつ行こうか？
- 18 次の休みが一ヶ月後？ ……君、本当に死んでしまうぞ？
- 19 でも、まあ……丁度いいかもしれないね。
- 20 明日だなんて言われたら、多分まだ答えは出なかっただろうから。

- 1 それに、一ヶ月後って言ったたら……ふふっ。
- 2 よし、一ヶ月後の休みの日にしよう。
- 3 絶対だぞ？ 約束を破ったら、天罰が下るからね。
- 4 頼むから、デートの前に過労死なんてしないでね？
- 5 そうならないよう、僕も出来ることは何でもするから。
- 6 それで、どこに行こうか？ 僕としてはやっぱり……

1 【Track 5】告白

2 (デート当日、あちこちを巡り終えた二人)

3 【左／近】

4 お待たせ。すまないね、ちょっと時間がかかってしまった。

5 ……女性にトイレが長いとか、失礼なことは言っちゃダメだぞ。

6 まあ、待たせた僕が言えたことじゃないけど。

7 じゃ、行こうか。

8 (展望台に登る)

9 夜の海、綺麗だね。月の光に照らされて、きらきら輝いてる。

10 ……輝いてたのは、海だけじゃないけど。

11 ここに来た人たち、みんなの表情もそうだった。

12 心の底から、この小さな島で遊ぶことを楽しんだ。

13 それを迎える店の人たちも、活気に溢れてて。

14 こんなにも美しい営みがあるんだって、感動したよ。

15 (真剣な様子の天使)

16 【正面／近】

17 それに何より、君が楽しそうで本当によかった。

18 あれ、気付いてないのかい？ 君、凄くいい表情してたよ。

19 普段は仕事ばかりで、疲れ切った顔しか見てこなかったから。

20 君もこんな表情をするんだって、初めて知ったよ。

- 1 ああ、光景を……そして、君の楽しそうな顔を、魔王の魔の手から守らなきゃって。そう、強く思った。
- 2 人間の世界を守るのが、僕たち天使の使命だけど。
- 3 これは使命とか関係なく、心から願っているんだ。
- 4 (昔を懐かしむように)
- 5 覚えてるかな？ 一年前の今日のこと。
- 6 そう、君と僕が出会った日。
- 7 ああ、あの時の僕は、魔王を倒すことが最優先、そう考えていた。
- 8 君のことだって、魔王への手がかりとしか思ってた。
- 9 でも、君と一年間一緒に過ごして、すっかり僕は変わってしまった。
- 10 他の何よりも、君のことが大事だって、そう思ってしまったんだ。
- 11 君からもらったものが、とても大切なものに思えるし、君が弱っていると心配で落ち着かなくなる。
- 12 それに何より……魔王がそのまま見つからなかったらいいのになって、そう思う事が増えた。
- 13 そうしたら、君と一緒にいられるから、って。
- 14 (照れくさそうに)
- 15 ふふ、少し熱くなり過ぎちゃったかな。
- 16 ごめんね、デートの最中なのに真面目な話なんかしちゃって。
- 17 言わなきゃいけないって思ったんだ。僕の、嘘偽りない本心だから。
- 18 うん？ どうしたの、そんなに改まって。君まで真面目な話が……え？
- 19 好き？ 僕の、ことが？
- 20 (天使は嬉しさを隠そうとするが、バレバレ)

- 1 そつ、それは、つまり……。
- 2 付き合う……僕と、君が。
- 3 へへ、えへへへ……あつ。
- 4 すまない、ちゃんと返事をしないとだよね。
- 5 ……少し長くなるけど、聞いて欲しい。
- 6 (真面目な語り口で)
- 7 【正面／密着】
- 8 君にデートに誘われてから、ずっと考えていた。
- 9 僕の気持ちの、その名前を。
- 10 色んな漫画や小説を読んだり、ドラマやアニメを見たり。
- 11 SNSで知り合った人に、話を聞いてみたり。
- 12 あれこれ色々考えて、今日を迎えたんだけど。
- 13 君に好きだと言われて、ようやくわかったんだよ。
- 14 どうして君といると、心が躍るのか。
- 15 どうして君が別の女性と結ばれることに、無性にモヤモヤするのか。
- 16 どうして君のそばにずっといたいと、そう願ってしまうのか。
- 17 簡単な事だったんだ。
- 18 (一息置つて)
- 19 僕は、君のことが好きで。
- 20 君に、恋をしている。

- 1 そう、この気持ちの名前は、恋だったんだよ。
- 2 (もどかしそうに)
- 3 いけないことだって、分かってる。
- 4 僕は天使、君は人間。
- 5 使命が終われば、僕は天界に帰らなきゃいけない。
- 6 きつと遠くないうちに、僕と君は離れ離れになる。
- 7 でも、もう我慢できないんだ。
- 8 君が好きで仕方ない。
- 9 君にも、僕を好きでいてほしい。
- 10 君と、恋人同士になりたい。
- 11 そんな気持ちも、胸の奥から溢れてくるんだ。
- 12 【正面／密着】
- 13 (主人公に抱き締められ驚く天使)
- 14 あっ……。これ、いい……。
- 15 君の体温、肌で感じられる。
- 16 相変わらず、心配になるくらい細いね、君の身体は。
- 17 でも、安心する。今までで一番、君を近くに感じてる。
- 18 そっか。君も、こうしたかったんだ。
- 19 でも、いいの？抱き締めるだけで……。
- 20 これ以上の「と、しないのかい？」

- 1 君なら、いいよ。
- 2 ほら、もつと屈んで……。
- 3 ん、ちゅ……。
- 4 ふふっ。キス、しちゃったね。
- 5 天使の口付けだ、君には特大の加護が付いた……と思う。たぶん。
- 6 疑ってるんだ？ じゃあ効果が出るまで……してみようか？
- 7 ちゅ……。ちゅっ、ちゅっ。
- 8 どう？ 信じてくれた？
- 9 少なくとも、僕は今、この上なく幸せだよ。
- 10 君も？ そっか、よかった。
- 11 それが一番の加護……ということにしておう。
- 12 (まだ明確に返事をしてないことに気付く)
- 13 【正面／近】
- 14 んんっ。それじゃ、改めて。
- 15 僕も、君のことが好きだ。
- 16 どうか、僕と付き合ってくれないだろうか。
- 17 (喜びをかみしめる天使)
- 18 えへ。これで僕たち、晴れて恋人同士だね。
- 19 今の僕が可愛い？ 君に言われるといい気分だよ、とても。
- 20 あ、「この服のこと？」なんだ、そっちな。うん、今日のために用意したんだよ、これ。

- 11 今まで君からもらっていた食事代を貯めていた分を、ここに使ったんだ。
- 12 本当は、君の役に立つ物に変えるつもりだったんだけどね。
- 13 デートに誘われて、あれこれ情報を集めていた時にね。
- 14 (恥ずかしそうに、もじもじと)
- 15 その……こういう日は、思い切りおめかしをすると書いてあったから。
- 16 今の僕に出来る全力でやってみたよ。
- 17 だって、君に綺麗だって、思ってたから。
- 18 結局、夜になるまで気付いてもらえなかったみたいけど。
- 19 でも、君から「可愛い」って言葉を引き出せたし、大満足だよ。
- 20 (おずおずと)
- 21 そういえば、結びの鐘……って言ったっけ。
- 22 記念にあれ、鳴らしに行ってみようか。
- 23 天使である僕が鳴らすんだから、あの鐘にも少しは箔がつくんじゃないかな。
- 24 人と天使の恋すら成就させる鐘、という感じでき。
- 25 ……僕が、浮かれてる？ 確かにそうかもね。
- 26 だって、しょうがないだろう？
- 27 好きな人と、同じ想いを交わせたんだ。
- 28 嬉しくないわけじゃないか。
- 29 君だって顔が笑ってるよ。とても嬉しそうに。
- 30 本当だって。嘘だと思っただけなら撮ってあげようか。

- 1 はい、こっち見て。
- 2 (シャッター音)
- 3 どうだい？ 今の君、いい笑顔だろう。誰が見ても、僕と同じように思うだろうね。
- 4 あっ。気付いた？ そうだよ。今日一日、君をこっそり撮ってたんだ。
- 5 ご馳走を美味しそうに食べる姿も。
- 6 階段登りでへトへトになっている姿も。
- 7 真剣な顔でお土産を選んでいる姿も。
- 8 君の全部が、愛おしいから。
- 9 目に焼き付けるだけじゃ、足りないと思ってね。
- 10 これなら、いつ見ても今日のことを思い出せるだろう？
- 11 僕のスマホの中、君の写真でいっぱいだよ。
- 12 ダメ、消さない。絶対消さないよ。
- 13 むしろこれから、どんどん増やしていかなきゃ。
- 14 幸せな思い出をいっぱい作れば、たとえ離れ離れになっても、きっと忘れずにいられるから。
- 15 もし、魔王が見つかって、僕の使命が終わって。
- 16 僕が展開に戻ったとしても……君のことを、絶対忘れずに済むと思うから。
- 17 だからこれからも、二人の思い出を沢山作っていきよう。
- 18 僕たちが、共に過ごした記録。想いを交わし合った証を、ね？
- 19 まず手始めに、結びの鐘を鳴らしに行こうよ。
- 20 ほら、僕の手を取って。

- 1 ……なんだか、気恥ずかしいね。
- 2 でも、嬉しい。僕たちは恋人なんだって実感が、ふつつつと湧いてくるよ。
- 3 ふふ、それじゃ行こうか。
- 4 ……愛してるよ。これからずっと。
- 5

1 【Track 6】「ロートーク

2 (初デートから半年。身体を重ねるようになってる。

3 正常位でしている最中で、息が荒くなっているフリをしている。

4 喘ぎ声は少しわざとらしく)

5 【正面／密着】

6 ふっ♡ふっ♡んっ♡あんっ♡ああっ♡

7 んっ♡もう、出そうなのかい……？

8 いいよっ♡中に、出してっ♡君の精液、全部出してっ♡

9 ああっ♡あんっ♡あんっ♡あっ、あっ♡はあんっ♡ああっ♡んっ♡ああああっ♡

10 (主人公が射精。少しずつ息を整える)

11 ああっ、君のが、中で震えてる……。はあ、はあ……。あつたかひのが、どくどくって……。

12 うん、いいよ。全部出すまで、なでなでしてあげるから……。

13 よしよし、よく出来たね……。

14 ほら、キスもしよう？ 最後まで、気持ち良く出し切って。

15 んむ……ちゅっ、ちゅっ♡ちゅっ……♡好き……♡あむっ、ちゅっ、ちゅっ……♡

16 ふはっ。また震えた……君、キス好きだね。僕も好き

17 んっ、全部出た？ そう、よかった。

18 お疲れ様。今日も格好良かったよ。

19 どう？ 気持ち良くなれた？

20 (天使は物足りないのを隠している)

- 1 ……そっか。君が気持ち良くなれてたなら、それでいいんだ。
- 2 今日はもうおしまい？ うん、それじゃ……。
- 3 このまま、抱き合って寝ようか。
- 4 ……あの、さ。一つ、聞きたいことがあるんだけど。
- 5 君は、寝取られというものに興味があるのかい？
- 6 ああ、うん。そうだよ。突然こんなことを言い出したら、誰だって驚くよね。
- 7 すまない、急にこんなことを言い出して。
- 8 きっかけは、些細な事だったんだ。
- 9 【正面／近】
- 10 (申し訳なさそうに)
- 11 ついこの間、君のPCを借りていたとき、検索履歴を偶然見ちゃって。
- 12 わざとじゃなくて、本当に偶然なんだ。
- 13 それで、ちょっとだけ魔が差したというか……。
- 14 君が何を検索しているのか、気になって見てみたんだ。
- 15 そうしたら、寝取らせという言葉を見つけてしまったんだよ。
- 16 それだけだったなら、特に気にも留めなかっただろうけど……。
- 17 よく見ると、何度も検索してるみたいだったから。
- 18 それで気になって、思い切って聞いてみたんだ。
- 19 (不安そうに。天使は主人公がそういう趣味の持ち主だとは思っていなかった)
- 20 寝取らせというの、あれだろう？

- 1 自分と愛し合っている恋人を、別の人間に抱かせることを言うんだよね。
- 2 端的に言えば、不倫や浮気を自分からさせるようなことで、あまり広く受け入れられるものでもないようだけど。
- 3 それでも根強い人気がある事だけは、僕も調べてみてわかったんだ。
- 4 君も、そういうインモラルな嗜好があるの？
- 5 他の誰かの恋人を抱くことが趣味……というわけではないよね。
- 6 君の普段の生活を見ていれば、そんなことに興味がないのは明らかだから。
- 7 とすると、君は恋人を奪われるのが好き？
- 8 もし、僕が別の男性に抱かれていたら、君は興奮する？
- 9 (意外そうに)
- 10 ……わからない、というの？ ……ふむふむ。へえ……。
- 11 いつからか、寝取らせという言葉が頭から離れなくなって、
- 12 そういう漫画や動画でばかり性欲を処理するようになった。
- 13 だけど、寝取らせが好きなのはわからない……と。つまりは、こういうことだよ？
- 14 そうだったんだ……。君に、そんな趣味が……。
- 15 (優しく受け入れる)
- 16 ううん、軽蔑したりなんかしないよ。
- 17 好みは人それぞれ。性的興奮の対象だって、それは同じだから。
- 18 それが君にとって一番興奮できるというなら、僕は受け入れるさ。
- 19 なにせ僕は、君の彼女なんだから。
- 20 でも、そうか。君が、そういうことで興奮するのは確かなんだね。

- 1 じゃあやっぱり、僕が別の男性に抱かれていたら興奮するのかな。
- 2 もしかして……僕が寝取られる妄想も、したことある？
- 3 ……するんだ。妄想もしてる……そうだったんだね。
- 4 どんな妄想をしたのか、聞いてみてもいい？
- 5 ふんふん。……うん、うん……。
- 6 そうか。僕が、君よりずっと格好いい、いわゆるイケメンに抱かれて、君を見限ったり……。
- 7 あるいは、年端も行かないような子供にいいようにされて、言いなりにされていたり……。
- 8 はたまた、汚らしい男に徹底的に穢されて、好き放題に使われていたり……。
- 9 そういう妄想か。ふむ。
- 10 一つ誤解を解くなら、僕は見た目で人を選んだりしないよ。
- 11 大事なのはそういうことじゃないって、ちゃんと知ってるから。
- 12 いくら外見が良くても、それだけで君を捨てたりなんか絶対にしない。それだけは約束するよ。
- 13 ……それ以外はどうかんだ、って顔だね。
- 14 確かに、僕の論理で言うなら……君より見た目が汚らしい男にだって、なびく可能性はあるね。
- 15 **(悪戯っ子のよつこ)**
- 16 ねえ、君……。
- 17 もし僕が、君よりずっと汚らしい男の人に抱かれていたら、どうする？
- 18 **(隠語だけは少し恥ずかしがる)**
- 19 そんな男性との……せ、セックス……にハマって、何度も会っていたとしたら、どう？
- 20 そしてそんな関係が、君と恋人になる、ずっと前から続いていたとしたら……？

- 1 ……ん。君のおちんちん、また硬くなったね。
- 2 本当に、そういうので興奮するんだ……。
- 3 じゃあ、今まで僕がしてきたことは、君のためになっていたんだね……。
- 4 (天使は覚悟を決める)
- 5 実はね。君に、もう一つ謝らなきゃいけないことがあるんだ。
- 6 さっき僕が言ったのは、もしもの話なんかじゃない。
- 7 実際に、僕の身にあつたことで。
- 8 そして今も、その関係が続いているんだ。
- 9 今日だって、その男性に抱かれてきた。
- 10 嘘だと思うかい？ でも、本当のことだ。証拠だって、それはもうたくさんある。
- 11 だから……今日までのこと、たっぷりと聞かせてあげるよ。
- 12 他でもない、君のためだけに、ね。
- 13 これから話すことは、君にとってつらい事実かもしれないけど。
- 14 僕のこと……嫌いにならないでくれると、嬉しいな。

- 1 【Track 7】天使は既に穢されて
- 2 (一度体を起こす。天使はどこか楽しそうな様子)
- 3 【右／近】
- 4 ふふ。君のおちんちん、凄く大きくなってる。
- 5 僕としてる時より大きいんじゃないかな？
- 6 このままじゃ眠れないだろうから、僕の手でシコシコして、楽にしてあげるね。
- 7 それで、どこから話そうか。こんな関係を持つようになったきっかけからがいいかな。
- 8 そうだね……。
- 9 (罪悪感で、言いつづらそうにしている)
- 10 【右／密着・囁き】
- 11 最初は、君を助けるためだった。
- 12 僕が仕事を探していたことは、前に話したことがあるよね。
- 13 身元不明の僕を、誰も雇ってくれなかったことも。
- 14 だからって君に世話になりっぱなしじゃいけない。そう思って、僕はSNSで仕事を探した。
- 15 そうして始めたのが……いわゆるパパ活というやつだったんだ。
- 16 パパ活を初めてすぐに、僕は何人かの男性と会った。
- 17 その中には、君よりイケメンだった人もいたけど。
- 18 僕は普通のセックスを普通にこなして、それなりのお金を貰うだけだった。
- 19 大して気持ち良くもないそれを淡々と終わらせて、
- 20 こんなものかと思いつながら、またパパ活の約束を入れる。

- 1 『彼に出会った』は少しだけ嬉しそうに
- 2 そんなことを何度かしていたら、彼に出会った。
- 3 彼は……言ってしまうと、どこにでもいそうな普通のおじさんだった。
- 4 君より老けているし、顔立ちだってパツとしない。体型だってだらしなくて、結構太っている。
- 5 見た目だけで言えば、君の方がずっと格好いい。
- 6 (呆れたような口ぶりで、だがどこか優しい)
- 7 その上、彼はその……言ってしまうと、ロリコンの変態だった。
- 8 メッセージをやり取りする段階で、そんな気はしてただけ……会ってみたら想像以上だったよ。
- 9 なにせ、僕を見るなり変な声で叫びだしてさ。
- 10 「金髪ロリ最高」だとか、「無駄のない美しい身体」だとか。
- 11 正直その様子は、ちよつと気持ち悪かったけど。
- 12 彼自身、僕と出会えて嬉しがってたし。今までにない反応だったから、気分は悪くなかった。
- 13 そうして話もそこそこに、僕たちは目的地へ向かうんだけど……。
- 14 歩き出してすぐ、彼は僕のお尻に手を伸ばしてきた。
- 15 そうしてすりすりと、好き勝手に撫で回してくるんだ。
- 16 思わず払いのけようとしたんだけど、
- 17 彼の機嫌を損ねたらお金が貰えないと思って、我慢したんだ。
- 18 そうしたら気を良くしたのか、彼は手つきをどんだいやらしくしてきた。
- 19 (語っているうちに、思い出してだんだん興奮してくる天使)
- 20 男性の大きな手で、お尻をむぎゅむぎゅと揉みしだかれて。

- 11 でも、それが気持ち良かった。身体は過敏に反応して、ビクビクと震えてしまった。
- 12 そうしたら彼は、僕のアソコ……おまんこを、下着越しに指で弄り始めた。
- 13 何のことはなくて、ただ指先でカリカリって引っ搔くようにしたり。
- 14 筋に沿って、指を前後に這わせたり。
- 15 たったそれだけの事なのに、やっぱり身体は反応してしまう。
- 16 いつの間にか、下着はびしょびしょに濡れていて。
- 17 彼の指が動いた、くちゆくちゅっていやらしい音を立ててしまうようになった。
- 18 声を我慢するのに必死だった僕は、彼の手が下着の中に入ってくるのを拒めなかった。
- 19 入口の周りを優しく撫でられるたびに、小さく声が漏れてしまう。
- 20 勃起したクリトリスを摘ままれるだけで、もう足取りもおぼつかない。
- 11 そんな僕の反応を楽しむように、彼はぐふふって笑うんだ。
- 12 そして、彼の指がついに、僕の中に入ってきた。
- 13 僕も知らない敏感なところを一瞬で探り当てられて……。
- 14 一度見つければ、そこをひたすらねちっこく弄られ続けて。
- 15 もう、声を我慢するのも無理だった。
- 16 はしたなく声を上げながら、人が見えている前で、僕は絶頂……イってしまったんだ。
- 17 (反応を見せる主人公に、天使はわずかに失望する)
- 18 ……君のおちんちんも、ビクって震えたね。
- 19 僕がおじさんにイカされるのを想像して、興奮してるんだ。
- 20 でも、まだまだ序の口だからね。ほら、シコシコ続けるよ。

- 1 ……結局、ホテルに着くまでに三回もイカされた。
- 2 彼の太い指でおまんこをほじらられているだけで、僕はいいように感じさせられてしまった。
- 3 他の男の人に触られた時は、そんな事なかったのに。
- 4 今思えば、君に触られるよりも気持ち良かったかも……。
- 5 (ハツとして、話題を切り替えようと早口気味になる)
- 6 えっと……それで、戸惑いと快楽とで頭が回らないまま、僕はホテルに連れ込まれたんだ。
- 7 部屋に入っつてすぐ、彼はキスしてきた。
- 8 (不機嫌そうに)
- 9 最初はイヤだったよ。その時にはもう、君のことが気になっていたし。
- 10 それに、おじさんの口は臭くてね。正直、近付きたくなくらいだった。
- 11 それでも彼は、唇を重ねてきて……口の中に、舌まで入れてきた。
- 12 君とは一度もしたことない、舌と舌を絡めるディープキス。
- 13 おじさんのよだれが入ってくるたび、その匂いに鼻が曲がりそうになって。
- 14 (また興奮してきている)
- 15 でも、必死に耐えてるうちに、だんだん気持ち良くなってきたんだ。
- 16 おじさんの舌が上顎をつつくたび、身体が熱くなって。
- 17 臭かったはずのよだれの匂いも、全然イヤじゃなくなってる。
- 18 気付けば僕の方からも、積極的に舌を絡めていた。
- 19 ちゅぱ、ちゅぱって、湿った水音が聞こえてくるくらいに。
- 20 口を離れたとき、二人の間でよだれが糸を引いていた。

- 1 それがとて、いけないことをしているみたいで、興奮してしまった。
- 2 (事務的に。天使は主人公の反応をあまり好ましく思っていない)
- 3 ……ねえ。恋人の自分がしたことない、深い深いキスを……別の男がしてた気分はどう？
- 4 聞かなくてもわかるけどね。今までで一番硬く、大きくなってるから、君のおちんちん。
- 5 まあ、それでも彼には及ばないけれど。
- 6 (少しずつ嬉しそうに。罪悪感が薄れていく)
- 7 彼のおちんちんは、君の二倍以上は大きいんだ。
- 8 口でして欲しいというから、そのために彼の服を脱がすんだけど……。
- 9 ズボンを下ろして、びっくりしたよ。
- 10 ガチガチに勃起したおちんちんが、僕の顔を叩くんだ。
- 11 シャワーも浴びてないから、とつてもオス臭くてね。
- 12 振りまかれる匂いで、頭がくらくらしてきて。
- 13 身体がどんどん火照って、お腹の奥がきゅんきゅん疼いてしまつて。
- 14 気付けば僕は彼のおちんちんを一心不乱に舐め回していた。
- 15 口に含むのも精一杯なくらい太いおちんちんに、つたない技術で必死に奉仕する。
- 16 それでも彼が気持ちよさそうにしてくれるから、それが嬉しくて。
- 17 彼の反応を見て、より気持ち良くなれるように工夫した。
- 18 そうすると彼は喜んで、敏感な部分の責め方を教えてくれる。
- 19 ……君のを舐める時にしたこと、全部彼に教わったことだ。
- 20 どうが敏感で、どう舐めたら気持ち良くなるのか。

- 1 全部全部、彼に教わって、彼にしたのと同じだよ。
- 2 そうして責め続けていたら、亀頭が一際ふくらんで……。
- 3 (感極まったように)
- 4 僕の口の中に、彼の精液がびゅっ、びゅー……って注ぎ込まれた。
- 5 溺れそうになるほどの精液が、喉の奥をびちゃびちゃって叩くんだ。
- 6 喉を鳴らしながら、それを飲み込んで……口に残ったものを、舌に乗せて彼に見せる。
- 7 よく味わって……なんて彼は言うけれど、本当にひどい味だった。
- 8 苦くて、まずくて、おまけにドロドロで喉に絡みついて……でも、クセになる味で。
- 9 薄くてさらさらで量も少ない、君の精液とは大違いだった。
- 10 そんなものを飲んでしまえば、身体は勝手に発情してしまう。
- 11 おまんこはトロトロにほぐれて、だらだらと愛液を垂れ流して。
- 12 目の前のオスの子種が欲しくて欲しくてたまらなかったよ。
- 13 お金を貰うためにしているんだっていう、大義名分すら忘れていた。
- 14 だから必死になって全部飲み干して、口の中をまた見せつけたんだ。
- 15 一滴残らず飲んだから、ご褒美が欲しいって。
- 16 一度射精したはずなのに、硬く立ったままのおちんちんを見てたら、自然とそうしていた。
- 17 どうやら喜んでもらえたようだね。
- 18 僕を抱き上げてベッドに寝かせたと思ったら、その上に覆い被さってきた。
- 19 大きなおちんちんを、僕のおまんこに擦り付けて……いいよね、いいよねって聞いてくる。
- 20 何が、なんて聞かなくても僕にはわかった。

- 1 だから……何も言わず、ただ頷いてぞ。
- 2 そして……彼のおちんちんが、君のじゃ絶対に届かない、奥の奥まで……。
- 3 ずぶずぶ、ずぶずぶ……って、ゆっくりと入ってきた。
- 4 発情し切ってトロトロになっていたおまんこは、彼の大きなモノでもしっかりと受け入れてしまった。
- 5 肉棒がひだひだを掻き分ける感触、お腹がつぶれそうになるほどの圧迫感……。
- 6 こんなおじさんので気持ち良くなっちゃダメだって、そう思ってたのに。
- 7 一番奥をこつんって突かれただけで、そんなの全部飛んでしまった。
- 8 (子供をあやすような感じで)
- 9 ……ふふ。先走り、出てきたよ？
- 10 本当に小さくて可愛いね、君のおちんちん。彼のとは大違い。
- 11 (また嬉しそうな声で。本人は無自覚)
- 12 彼のは本当に凄くて……しかも、それだけじゃないんだ。
- 13 僕が感じる所を的確に狙って、ねちっこく責め上げてくる。
- 14 やめてって言っても、絶対やめてくれなくて。
- 15 かと思えば、僕がいきそうなを見計らって、ピストンをやめて焦らしてくる。
- 16 待ってたんだろ？僕が、自分からおねだりするのを。
- 17 結局、僕は彼の思い通りにするしかなかった。
- 18 もっとしてほしい、壊れてもいいから……って。
- 19 そこからはもう、臍気にしか覚えていない。
- 20 (だんだん熱が入ってくる)

- 1 気が狂うくらい何度もイカされて……いってもお構いなしに突かれて……。
- 2 獣みたいな声を出しながら、何度も何度も、僕は……。
- 3 最後には、舌を絡ませながらの中出し……。
- 4 彼の熱くて濃いドロドロの精液が、僕の中で、びゅーっ……びゅーっ……。
- 5 そんな感じで、時間になるまでほとんどずっと、彼と繋がりっぱなしで過ごした。
- 6 時間が来て、彼は約束の支払いをしてくれるんだけど……それまでの誰よりも多くのお金をくれた。
- 7 しかも……次は倍出すから、また会おう……って。
- 8 少し迷ったけど……お金を貰うためだからって自分に言い聞かせて、彼と連絡先を交換した。
- 9 以来ずっと、僕はおじさんと身体を重ね続けている。
- 10 なんだかんだと言いつつ、君の監視を放り出して彼と会った。
- 11 ここ数回はもう、お金のやり取りなしに会っているくらいだ。
- 12 ……もうイキそう？ おちんちんの先っぽ、膨らんできたよ。
- 13 じゃあ、最後の一押し。これ、見てよ。
- 14 見覚えあるよね、この服。そう、君とのデートで着てた服。
- 15 この服だって、彼が選んでくれたんだ。
- 16 ちなみにこの写真は、もちろんデートの日の写真だよ。
- 17 デートの合間に、トイレでおじさんのおちんちんを舐め回しているところだね。
- 18 どうだったかな。初めてのデートすら穢されていた気分は？
- 19 (軽蔑するように。「ここから主人公への気持ち弱くなり始める」)
- 20 そうなんだ。これでも興奮してしまうんだね、君は。

- 1 もう出るんだらう？。このまま僕の手の中に出していいよ。
- 2 はい、びゅー……。
- 3 (主人公射精。量の少なさに思わずがっかりする)
- 4 ん、出たね……いつもより量が多いけど……やっぱり、彼の方が量も濃さもはるかに上だ。
- 5 うん？。どうしたんだい……って。
- 6 (ハッと我に返ったように。主人公は涙を流している)
- 7 【右／近】
- 8 あ……流石に、シヨックが大きかったかな。
- 9 ごめんね。君を傷付けたくはなかったんだけど。
- 10 やっぱり、恋人が別の男と会っているのはイヤだよね。
- 11 よし、決めた。彼との関係はこれまでにする。
- 12 次会うときに、そう伝えるよ。
- 13 最近は彼と会う回数も減っていたし、きつと受け入れてくれるだろう。
- 14 ああ、うん。君と恋人同士になってからは、ほとんど会ってない。
- 15 君を裏切り続けるのが、とても苦しかったから。
- 16 関係が続いていた方が、君の場合は興奮できるみたいだけど……。
- 17 君の心を壊してしまっっては、元も子もないよ。
- 18 だから、彼とは縁を切る。
- 19 心配しないで。僕は必ず、君のもとに戻ってくるから。

1 【Track 8】寝取られビデオ通話

2 (最初の寝取られ報告から数日後。主人公のもとにビデオ電話がかかってくる。

3 天使はベッドに横たわるおじさんの上にまたがっている。

4 スマホはおじさんが持っている)

5 【正面／中】

6 (気まずそうに)

7 あー、えっと、見えてるかな？

8 うん、僕だよ。エリーだ。

9 いま、僕にまたがられてるのが、この前話したおじさん。

10 どうしてこんなことになってるのか、って顔だね。その理由なんだけど……。

11 この間、このおじさんと縁を切る、って話したよね。

12 その約束通り、僕は関係を終わらせようと思って、彼氏がいることも話したんだけど。

13 そうしたら、最後に一度だけゲームをしようって。

14 もし勝てたら、関係は終わり。

15 負けたら、逆に君との関係を終わらせて、僕はおじさんの彼女になる。

16 関係を切ると言った矢先に、また抱かれるのはどうかと思ったんだけど。

17 僕の都合で始めた関係を、僕の都合で終わらせるわけだから。

18 それくらいはしてあげてもいいかなって、そう思ったんだ。

19 そういうわけで、これからおじさんと勝負するんだよ。

20 先にイった方が負け。とても分かりやすいだろう？

- 1 君には、勝負の様子を見てほしい。不正のないようにね。
- 2 それで、応援して欲しいんだ。僕がおじさんに勝って、君の所に戻ってこれるように。
- 3 間違っても、僕が負ける所なんて、期待しちゃダメだよ……。
- 4 んんっ♡ わかったよ、そろそろ始めようか。
- 5 ふふん、何度「のおちんちんと交わってきた」と思ってるんだい。そう簡単に僕はイかないよ。
- 6 (おじさんのピスが挿入される)
- 7 あっ♡ 入ってきた……ああああああっ♡
- 8 おっ♡ おっほおおおっ♡
- 9 あっ♡ やっぱり凄いつ♡ このおちんちん凄いつ♡
- 10 ふーっ♡ ふーっ♡ でも、まだこれくらいならっ♡
- 11 ふっ♡ ふっ♡ ほら、僕が動くから、おじさんはじっとして……♡
- 12 (おじさん、構わずピストン開始)
- 13 おおおおおおおっ♡
- 14 おっ♡ おっ♡ おっ♡ おっ♡ あっ♡
- 15 みっ、見ないでっ♡ おっ♡ こんな僕を見ないでっ♡
- 16 だめっ♡ こんなのっ、すべ、っ……♡ おっ♡ おっ♡
- 17 おっほおおおおおおおっ♡
- 18 ひあっ♡ イってないっ♡ まだイってないっ♡
- 19 あっ♡ いまダメっ♡ いまは感じやすいからあっ♡
- 20 おっおっおっおっおっ♡ んんっ♡ 認めるっ♡ 認めるからっ♡

- 1 イったっ♡ イきましたっ♡ おちんちん入れられてすぐ即イキしましたあ♡
- 2 ピストン数回されただけで身体が負けを認めちゃいましたあ♡
- 3 負けっ♡ 僕の負けですっ♡
- 4 っ♡ っ♡ っ♡ っ♡ ほっおっおっ♡
- 5 っ♡ おちんちん、ナカで暴れてるっ♡
- 6 無理だっ♡ 我慢するの無理っ♡
- 7 またイクっ♡ っ♡ っ♡ っ♡ っ♡ っ♡ おほっおっおっおっ♡
- 8 っあっっ♡ まだイってるっ♡ イってるのっ♡
- 9 はっ♡ はっ♡ あっっ♡ はっ♡
- 10 っっっっ♡ うっっ♡ うっ♡ っおっ♡
- 11 っっ♡ おじさんっ♡ すきっ♡ しゅきっ♡
- 12 っあっあっっ♡ はっ♡ っっっっ♡
- 13 すっっっ♡ おまんこの奥、どちゅどちゅ突かれてるっ♡
- 14 っっ♡ っっ♡ 僕、今、幸せえっ♡
- 15 んっ♡ おちんちん、膨らんできたっ♡
- 16 っっ♡ っっっ♡ おじさんの精液っ、僕の中に出っっっっっっ♡
- 17 っっ、手、握っっっ♡ ギュッてっっ♡ 恋人繋ぎで一緒にっ♡
- 18 っっ♡ っっ♡ っっ♡ っっ♡ っっ♡ っっ♡
- 19 っぢゅっっ♡ っっっっ♡ っっっっっっ♡
- 20 っっ♡ っっ♡ っっ♡ っっ♡ っっ♡ っっ♡ っっ♡

1 (おじさん射精)

- 2 “おっほおおおおおおおっ♡
- 3 “おおおおおお……っ♡ “おっ♡ “おっ♡ “おおおおおお……っ♡
- 4 いっばい出てっ♡ 熱いの、びゅーびゅーっ♡
- 5 “うっお、射精なっがあ……♡ はああああ……♡
- 6 はーっ、はーっ、はー……♡
- 7 おじさん、出し過ぎだよ……♡ そんなに僕の中、気持ち良かったのかい？
- 8 (ペニスが引き抜かれ、寂しそうな声を出す天使)
- 9 あっ……♡ ああ、おじさんの精液、どんどん溢れてくる……勿体ないな……♡
- 10 ねえ、おじさん♡ キス、してほしいな……♡
- 11 そう。舌と舌を絡める、エッチなキス……♡
- 12 んむ……ちゅぱ、れろれろ……♡ ちゅ、れるれる……♡ ちゅううっ♡
- 13 おじさん、しゅき……♡ ちゅ……れろれろれろ……♡ ちゅぷ、ちゅぷ♡
- 14 しゅき……らしいしゅき……♡ あむ、ちゅううっ……♡ れえ……ろ♡
- 15 ぷはあ♡ はあ、はあ……♡ やっぱり、おじさんとのキス、気持ちいい……♡
- 16 次は……うん♡ お掃除、だよな。僕に任せて。
- 17 (おじさんは横たわったまま、天使が移動してペニスの前に顔を持ってくる)
- 18 はあ……一度出したのに、まだ硬いまま……♡
- 19 おじさんのおちんちん、カッコいいね……♡
- 20 ん、ちゅっ♡ れえ……れろれろれろれろ……♡

- 1 ちゅるる……「くっ、くっ」♡
- 2 ああ……この味だ……♡ クセになるんだ、これ……♡
- 3 もうこれなしじゃ、生きていけないよ♡
- 4 もっ……もっ……♡
- 5 はむ……れろれろれろ……♡
- 6 根元の方まで、白いの全部、舐め取るからね……♡
- 7 れるれるれる、れろれろれろ……♡
- 8 よし、これで竿は綺麗になった……♡
- 9 じゃあお次は……ちゅるるるるるる♡
- 10 尿道に残った精液も、全部……ちゅるるるるるる♡
- 11 ちゅるるるるるる♡ じゅるるるるるる♡ ぐっほ♡ ぐっほ♡ ぐっほ♡ ぐっほ♡
- 12 んん……ちゅるるるるるる……♡ じゅるるるるるる♡
- 13 れろれろれろれろ……♡ じゅっほ♡ じゅっほ♡ じゅっほ♡ じゅっほ♡
- 14 れろちゅっ♡んちゅ♡んれろお♡あむっ♡んじゅっ♡ちゅっ♡んちゅ♡じゅるるるる♡
- 15 んちゅぶっ♡れるちゅっ♡ちゅぶっ♡ちゅほっ♡んもっ♡むちゅるるるる♡んちゅむ♡んぶーっ♡ぶっ♡んぶちゅっ♡ちゅるるるる♡
- 16 はあ……♡ んん……♡
- 17 (口内で精液をかみしめる)
- 18 くちゅ、くちゅ……♡ くちゅ、くちゅ……♡
- 19 「くっ、くっ」……♡ 「くっ、くっ」……♡
- 20 んくっ、ああ……美味しい……♡ 「馳走様でした……♡

- 1 ふふ……おじさんのおちんちん、ビクって跳ねたね♡
- 2 お掃除フェラからのごっくん、好きだもんね？
- 3 硬く、反り返って……僕はもう、すっかりこのおちんちんの虜になってしまったよ♡
- 4 次はどうするの？ どんな体位が良いかな？
- 5 ……後ろからだね、わかった。
- 6 (天使はおじさんに尻を向ける)
- 7 はい、どうぞ♡ いつでもいいよ♡
- 8 うん？ 元カレに、負けた報告を？
- 9 ああ、そっか。通話の途中なんだっけ、これ。
- 10 【正面／近】
- 11 (事務的に。主人公のことはもうどうでもよくなっている)
- 12 おーい、見えてるかい、君。
- 13 見ての通り、この勝負は僕の負けだ。僕は、おじさんに勝てなかった。
- 14 君も見えていたろう？ 勝負が始まってすぐに、言い訳のしようもないほどイキ続けていた僕を。
- 15 最初から勝ち目なんかなかったんだ。僕が、おじさんのおちんちに勝てるわけなかった。
- 16 そっいう意味では、不利な勝負だったかもしれないけど。
- 17 とはいえ、約束は約束。勝負に負けた僕には、それを果たす義務がある。
- 18 だから……君とは今日でお別れだ。
- 19 僕は今日からおじさんの彼女になって、おじさんと一緒に暮らすよ。
- 20 毎日毎日、このおっきなおちんちんで奥まで突かれながら、愛の言葉を交わし合う……幸せな日々を過ごすんだ。

- 1 後で荷物を取りに、いったんそっちに戻るね。
- 2 それが、君と僕の最後。それが終われば、僕はもう二度と君と会うことはない。
- 3 浮気は良くないって、君が教えてくれたから。
- 4 僕はもうおじさんのモノ。だから、君とはもう一緒にいられないんだ。
- 5 ……勘違いしないでね。僕は、君のことが好きだった。
- 6 デートの日に言ったことも、決して嘘じゃない。
- 7 君には数えきれないくらいの恩があるし、君と過ごした日々は確かに幸せだった。
- 8 こんな日々を守りたいと、心の底から思ってた。
- 9 けど今は……君を守ることよりも、おじさんとセックスすることの方が大事なんだ。
- 10 君とセックスするより、おじさんとする方がずっと気持ちいいし。
- 11 ごめんね、こんな勝手な事を言っただけ。でも、もう我慢できないんだ。
- 12 僕は、このおじさんの方が、好きなんだよ……♡
- 13 (主人公にもう用は無いとばかりに、媚びた声でおねだりする)
- 14 ねえ、おじさん♡♡ ちゃんと報告したよ♡
- 15 だからはやく♡♡ おちんちん下さい♡♡
- 16 もういいんだっ、彼のことなんかどうだっていいから♡♡ お願い♡♡
- 17 (再度挿入される)
- 18 ♪おっ♡♡ きっ……たあああ……♡
- 19 この体勢、これすきっ♡♡ おじさんのおちんちんの形がよくわかる……♡
- 20 後ろからっ、獣みたいに犯されるんだ……っ♡

1 (ピストン開始)

- 2 “おっ♡ほっ♡ほっ♡ほっ♡おおおおっ♡
- 3 これいっっ♡お腹の裏、ぞりぞりっっ♡めくれ、るっっ♡おっ♡おっ♡おっ♡ほおおおっ♡
- 4 やっ♡ああっ♡だめっ♡すべいっちゃっ♡
- 5 イぐっ♡イぐっ♡イグイグイぐっ♡
- 6 ほおっ♡“おっおっおっおっおっ♡おほおっ♡“おおおおおおおっ♡
- 7 “あっ♡まっっ♡いってるっ♡いってるのっ♡
- 8 “おおおおおおおっ♡だめっ、またイぐっ♡
- 9 気持ちいいっっ、こすれてっ♡“あっ♡腕掴まれるのすきっ♡
- 10 “あああああっ♡“おっ♡“おっ♡“おっほおおおおおおっ♡
- 11 しゅきっ♡おじさんしゅきっ♡らっしゅきっ♡“あっ♡“あああああっ♡
- 12 おちんちん、ビクビクっっ♡僕のナカ、気持ちいいっ
- 13 うんっ♡ごっごっ♡僕でっっばっ気持ち良くなっっ♡
- 14 もっっ♡壊れるくっっっ♡はっ♡はっ♡あっっ♡
- 15 僕はもうおじさんのモノなんだって、身体に刻み付けてくれっ♡
- 16 うっおっ♡“おおおっ♡“おっおっおっおっ♡
- 17 “っは、はおお、おっ、おおっ、おおお……お♡
- 18 ほっ、んっおお、おおん、おっ、おおっ、んっお、ほっ、おおっ、おおお♡
- 19 “っお、おおん♡んおお、おおっほ、ほっ、おっお、おおん♡
- 20 んおお、おっ、おおっ、んおお、おおっほ♡ほっお、おおん♡

- 1 はっ、はおっ、んっおお、おおん♡
- 2 ぁっ、またイぐっ♡ イっちやうっ♡
- 3 おじさんもっ、イきそっうなのかいっ♡ いいよっ、また中に出してっ♡
- 4 一度出したら、何回出しても同じだからっ♡ ねっ♡ 一緒にっ♡
- 5 ぁっ、おっ、おっ、おっ♡ も、イぐっ♡ 我慢むりっ♡ 絶対イぐっ♡
- 6 イぐイぐイぐイぐっ♡ イっ……ぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐっ♡
- 7 (おじさん射精)
- 8 ぁあああ……っ♡ 先っぽが、奥に、押し付けられてえ……っ♡
- 9 ひいんっ♡ お腹、精液でいっぱいになるっ♡
- 10 あ、あ、ああああ……っ♡ はあ、はあ、はあ……っ♡
- 11 ふふ、二発目なのに、射精長すぎだよ……っ♡ しかも、まだ大きいまま……っ♡
- 12 おじさんのおちんちん、凄すぎだ……っ♡
- 13 はあ、はあ……っ♡ あれ、まだ通話続いてたんだ？
- 14 (冷たく突き放す)
- 15 君、まだ聞いてたのかい。もう分かっただろう？ これからは恋人同士の時間だ。
- 16 君はもう邪魔。僕たちは二人きりで、このひと時を堪能したいんだよ。
- 17 それいう訳だから、また後で。今、日付が変わったところだから……多分、昼過ぎには戻るよ。
- 18 じゃあね。もう切るよ。

19 (通話終了)

1 【Track 9】完堕ち寝取られ報告

2 (次の日の夜。主人公は自宅でベッドに腰掛け、天使の帰りを待つ。)

3 天使は主人公に対し、冷たく事務的に、どこか軽蔑したような感じで接する)

4 【正面／中】

5 ただいま。遅くなってすまないね。

6 おじさんが、中々帰してくれないから。

7 ……いや、帰るといっうのは違うか。僕の帰る場所は、もうここじゃない。

8 今日からは、おじさんの家が僕の帰る場所なんだから。

9 ここに来たのも、荷物を取りに来たついでに、君にお別れを言いに来ただけ。

10 【正面／近】

11 しかし、ひどい匂いだね。もしかなくても…

12 …僕が寝取られている所で、何度もシコシコしてたのかな。

13 まあ、そんなところだと思ったよ。

14 (天使は主人公の隣に腰掛ける)

15 ……君には今日まで、いっぱいお世話になった。その恩を忘れるほど、僕も恥知らずじゃない。

16 君には謝らないといけないことも、山のようにある。

17 だから、せめてものお礼として……最後にとびっきりのオナサポ、してあげる。

18 【左／密着・囁き】

19 ほら、ズボンを脱いで。ああ、君の粗末なおちんちんにはもう触ってあげないよ。

20 僕の身体はおじさんだけのモノ。おじさん以外の男性のおちんちんに奉仕するつもりはないからね。

- 1 勝手にシゴシゴして、勝手に気持ち良くなるという。
- 2 (主人公がズボンを脱ぐ)
- 3 やっぱり小さいね、君のおちんちん。おじさんの半分もないや。
- 4 まあ、もうどうでもいいけど。それじゃ、まずは……これ、返しておくよ。
- 5 そう。君に買ってもらったスマホ。
- 6 君とはお別れだから、ちゃんと返すのが筋だと思って。
- 7 心配はいらないよ。おじさんが最新のを買ってくれて言うから。
- 8 その中には、君との思い出がたくさん詰まってる。
- 9 でもそれ以上に、おじさんとのエッチな思い出が残ってる。
- 10 それを見て、好きな時にオカズにするといいよ。
- 11 これなんかどうかな。君とのデートの合間に、おじさんのおちんちんをしゃぶってる写真。
- 12 こんな写真や動画が、このスマホの中に、星の数ほど眠ってる。
- 13 寝取られマゾの君にはうってつけだろう？
- 14 ふふ。どこでそんな言葉覚えてきたんだ、って顔だね。
- 15 お察しの通りさ。全部、おじさんが教えてくれた。
- 16 おじさんが喜ぶ言葉遣いも、エッチな言葉も。
- 17 (『寝取られマゾ』『雑魚オス』を強調する)
- 18 君のような男性を、寝取られマゾの雑魚オスって呼ぶ事も。
- 19 ……おちんちん、震えたね。マゾとか雑魚って言われて、興奮してるんだ。
- 20 ほんっつとくに情けないね、君は……。恋人が、他の男に寝取られたのに。

- 1 その上、自分のことをマゾとか雑魚とかって、バカにしてくるのに。
- 2 取り返そうとするでもなく、言い返すでもなく、ただ粗チンをシコシコしてるだけ。
- 3 今の君を見てみると、こっと思わずにはいられない。
- 4 どうしてこんな人を好きになってしまったんだろう、って。
- 5 君は僕が大切なんじゃないなくて、ただ興奮できればなんでも良かったんだ。
- 6 だから、僕が他の男に会いに行こうとしても、止めようとしなかった。
- 7 本気で関係を終わらせたいなら、会いに行くなって止めるべきだった。
- 8 せつかくスマホがあるんだから、それで連絡させればよかったんだ。
- 9 僕のことだから、きつと不誠実なんだと言って、直接会いに行こうとしただろうけど。
- 10 そうだとしても、君も一緒に来ればよかった。
- 11 そうしたら、おじさんだって気が変わってたはずだよ。
- 12 おじさんもそう言うってた。彼氏同伴なら大人しく手を引くつもりだった、って。
- 13 でも僕だけが来た。だから、あのゲームを持ちかけてきた……。
- 14 結果は、君もご覧の通りさ。
- 15 僕は負けて、正式におじさんの彼女になった。
- 16 そして、君とはもう恋人じゃなくなった。
- 17 (天使はもう軽蔑を隠そうともしない)
- 18 さぞ気持ち良かっただろう？ 僕が寝取られる姿を見ながらするオナニーは。
- 19 そうじゃなかったら、部屋がこんなに精液臭いはずもない。
- 20 ……僕とする時は一回、二回で終わりなのに、寝取られオナニーは何回でもできるんだね。

- 1 いいよ、君はそのままです。大事な女性が寝取られる姿で、せつせとオナニーに励むといい。
- 2 僕は君のことなんか忘れて、おじさんと毎日幸せで気持ちいいセックスをして過ごすから。
- 3 実際、その方が相性もいいんだよね。
- 4 君は、恋人が他の男に抱かれています方が興奮できる。
- 5 僕は、おじさんと気持ちいいセックスができる。
- 6 おじさんは、僕の身体を隅から隅まで堪能できる。
- 7 誰も損をしない、最高の結末。そうだろうか？
- 8 今だから言うけどね……君とのセックス、全然気持ち良くなかったんだ。
- 9 結局、一度もイったことはなかったしね。喘ぎ声も、全部演技。気付いてたかい？
- 10 まあ、無理だろうね。君は、自分が気持ち良くなるので精一杯だったから。
- 11 だから、僕は全然気持ち良くなれなかった。
- 12 好きな相手とするセックスが一番気持ちいいんだろう？
- 13 なら、僕はおじさんが好きだったことになる。
- 14 だって、おじさんとするセックスが、一番気持ちいいから。
- 15 おじさんとした後だと、どんな人とセックスしても気持ち良くなれないから。
- 16 ……僕の運命の相手は、君じゃなくて、おじさんだったんだよ。
- 17 君は、僕が誰かに奪われる方が良かったんだ。
- 18 これを聞いて、おちんちんを勃起させているのが、何よりの証拠だよ。
- 19 ほら、先走りもダラダラ溢れてる。
- 20 悔しくない？ 自分の恋人が、変態のおじさんに寝取られるなんて。

- 1 ……これだけ言われて、まだシコシコ止めないんだ。
- 2 僕とおじさんのセックスを見て、興奮するだけ……。
- 3 『雑魚オス』を強調
- 4 君は本当に……どうしようもない雑魚オスだね。
- 5 ふーん……僕とおじさんのキス、そんなに興奮する？ さっきから、その写真ばかり見てるけど。
- 6 まあそっか。君とはしたことないもんね、こんなエッチなキス。
- 7 舌と舌をべろ絡めて、しゅきしゅきって囁き合う、愛情たっぷりのディープキス。
- 8 君とのデートの合間にも、おじさんとこんなキスをしてたんだよ。
- 9 それだけじゃない。おちんちんだってしゃぶったし、セックスだってした。
- 10 君にバレたらどうしようって思ったら、余計に気持ち良くなって。
- 11 おじさんの方も、いつもより多く出してくれた。
- 12 流石に、今日ほどじゃなかったけど。今日は格別だったから。
- 13 僕が彼女になった記念とか言って、ずっと繋がらばなし。
- 14 おじさんに押し潰されそうになりながら、キスしたまま中出しされたり。
- 15 後ろから抱きかかえられて、オナホみたいにハメ潰されたり。
- 16 時間が来たら、今度はおじさんの家に連れ込まれて。
- 17 何度も何度も、口とおまんこで彼の精液を受け止め続けて。
- 18 気付けば、こんな夜遅くなっちゃった。
- 19 ……ふふ。やっぱり君は、実際にした話を聞かされるのが一番いいみたいだね？
- 20 しごく手が速くなってる。もういきそう？

- 1 いいよ、君がいくところ、見てあげろ。これで最後だから、しっかり見届けてあげるよ。
- 2 全部出し切って、綺麗さっぱりお別れしようね。
- 3 シロシロシロシロ、シロシロシロシロ。
- 4 ほら、早く出せ。寝取られた恋人のエッチな姿見ながらイけ。
- 5 シロシロシロシロ、シロシロシロシロ。
- 6 元恋人のハメ撮り見ながら、薄くて少ない雑魚オス精液ムダ打ちしろ。
- 7 シロシロシロシロ、シロシロシロシロ。
- 8 ふふ、今更泣いてるの？ もう何もかも手遅れなのに。後悔しても遅いの。
- 9 シロシロシロシロ、シロシロシロシロ。
- 10 もう出るんだ。いいよ……イけ、ざー……。イけ、イけ……。
- 11 (主人公射精)
- 12 はい、ぴゅっぴゅー……。あーあ、イっちゃった……。
- 13 ……って、もう終わり？ はあ、相変わらず少ないね、君の精液。
- 14 まあ、どうでもいいか。これでもう、君とは完全にお別れだね。
- 15 【左／近】
- 16 それじゃ、僕はもう帰るよ。荷物も着替えくらいしかないし。
- 17 君への気持ちや未練なんて、欠片も残ってないから。
- 18 おじさん以外、全部どうでもいい。だから君とは、もう二度と会うことはない。
- 19 君はせいぜい、穢されていた思い出に浸りながら、一人で惨めに興奮しているといい。
- 20 ほら、これ見て。君と鳴らした、結びの鐘。

- 1 ここに行く直前にも、おじさんとセックスしてたんだよ。興奮するかい？
- 2 前に言ったよね。こんなの、何の効果もないって。
- 3 言った通りだろう？ 現に僕と君は、今日で恋人じゃなくなったんだから。
- 4 ……行かないで、って。もう遅いよ。
- 5 僕はおじさんの彼女だよ？ 君の言う事なんか、聞く理由ないよね。
- 6 もういいかな。早く彼の所に帰りたいんだけど。
- 7 (黙り込む主人公を置いて立ち去る天使)
- 8 【左／中】
- 9 ……さようなら、優しい人。僕は君のことが、好きだったよ。

1 【Track 10】エピソード

2 (Track 9の続き。一転して明るい雰囲気に戻る。

3 さっきの話は嘘)

4 【左／近】

5 なんてね。嘘だよ、嘘。

6 おじさんの彼女になるのも、ニコを出ていくのも、どれもこれも嘘だ。

7 君は「こういうのが好きそうだから、おじさんにも協力してもらったんだ。

8 実際、興奮しただろう？ おじさんの言う鬱勃起、出来てたんじゃないかな。

9 ふふ、大丈夫。もう泣かないで。僕は何処にも行かないよ。

10 (天使のもとに主人公が飛び込んでくる)

11 【正面／近】

12 わっ……そんなに悲しかったんだ。すまない、やりすぎてしまったね。

13 よしよし、僕はここにいるよ……。

14 ずっとずっと、傍にいるから……。

15 よしよし、よしよし。

16 ……落ち着いた？ なら良かった。

17 うん。全部説明するね。

18 さっきも言ったけど、これはそういうプレイだったんだよ。

19 君を徹底的に追い詰めて、より気持ち良く射精してもらえるように、おじさんにも一芝居打ってもらった。

20 彼は気持ちいいセックスが出来るならそれでいい、っていう人だから。

- 1 彼女になるとか、そういうのは求めてないんだ。
- 2 だから、あのゲームも嘘っぱち。最初から勝てるわけない勝負に、僕が乗るわけないだろう？
- 3 そういうわけで、僕はこれからも、君と恋人でいるつもりだよ。
- 4 だいたい、魔王を探す使命は終わってないんだ。
- 5 重要参考人の君を、みすみす手放すわけじゃないじゃないか。
- 6 ……なんでまた泣いてるのさ。僕はどこにも行かないって言ってるじゃないか。
- 7 安心した？ 安心しても泣くんだね。
- 8 まったく、可愛いな、君は……。
- 9 うん。やっぱり、僕は君が好きだ。
- 10 こういう姿も、愛おしくてたまらない。
- 11 (罪悪感でしおらしくなる)
- 12 でも、いいの…
- 13 僕は君がいるのに、他の男性と浮気して……。
- 14 デートの最中だって、何度も何度も抱かれて……。
- 15 そのうえ、演技とはいえ君を罵倒したのに。
- 16 こんな僕で、いいの？ 僕のことなんか、嫌いになってもおかしくないんだよ。
- 17 君には、僕を罵倒し返す権利があるんだよ？
- 18 なのにな、どうして…
- 19 ……そっか。僕が、いいんだ。えへ。
- 20 分かった。ならお言葉に甘えて、これからも君のそばに居させてもらおうよ。

- 1 ごめんね、君を傷付けて。本当に申し訳なかった。この償いは必ずするよ。
- 2 うん？ 慰めエッチがしたい？ うーん、それはちょっと……。
- 3 いや、正直に言うね。申し訳ないけど、それは出来ないんだ。
- 4 さっきのプレイをする条件として、君とはセックス禁止って、彼に言われているから。
- 5 そうじゃないと、もう二度と会わないとも。
- 6 もちろん、こんなの口約束だ。
- 7 おじさんとの関係なんか切って、健全なお付き合いをした方が良いのは分かってる。
- 8 君のことは好きだ。それは嘘じゃない。君がそうして欲しいというなら、僕はそれに従うよ。
- 9 (悲しそうに)
- 10 でも、でもね。
- 11 君とのセックスが気持ち良くないのも本当なんだ。
- 12 君の精液では物足りない。君のおちんちんでは満たされない。
- 13 僕のおまんこは、彼専用を作り変えられてしまった。
- 14 悲しいけれど、僕の身体は完全に、おじさんに屈服している。
- 15 おじさん以外では気持ち良くなれないのは、残念だけど事実なんだよ。
- 16 とはいえ、君よりおじさんの方が好きなんてこともない。僕が愛しているのは、君一人だけだ。
- 17 今のところ、だけどね。
- 18 (おすおす)
- 19 ……一応、おじさんから、もう一つ伝言を預かっているんだけど。
- 20 もしまた寝取られプレイがしたいなら、いつでも協力する、って。

- 1 どうする？ 君はその方が興奮するというのは、本当のことだし。
- 2 その方が、僕も気持ち良くなれるし。
- 3 さつきも言ったけど、おじさんには僕を彼女にする気はない。
- 4 だから、仮にこの関係を続けても、僕と君の関係が壊れることは、恐らくない。
- 5 逆に、おじさんとの関係を切れば、君は僕とセックスできる。
- 6 (不安そうに。天使は主人公がどちらを選ぶか不安)
- 7 どうだろう。君は、どうしたい？
- 8 君が選んでいいよ。
- 9 おじさんとの関係を切って、僕とセックスするか。
- 10 気持ち良く射精するために、僕をおじさんに差し出すか。
- 11 僕は君の恋人だ。君がしたいことには、なんでも協力する。
- 12 どっちがいい？ 君は、どっちを選ぶ？
- 13 迷ってるんだ。いいよ、いくらでも迷って。
- 14 悩んでいる姿もまた、愛おしいと思えるから。
- 15 よく考えて、結論を出すといい。君のためになる選択を。
- 16 でも、これだけは忘れないでほしい。
- 17 どれだけ身体を穢されようと、どれだけ他の男性に抱かれようと……。
- 18 僕は、君のことを愛してるよ。